

事例 4 8 手動逆洗を長く実施した事による水質改善事例

1. 基本情報および一年間の測定結果

処理方式	性能評価型 窒素除去型	作業予定月	
メーカー/型式	ニッコー(株)/浄化王型	保守点検	4・8・12月
人槽/使用人員	5人槽/4人使用	清掃	2月
日平均汚水量	1.01m ³ /日	法定検査	10月

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室 (cm)		1次処理2室 (cm)		処理水槽 (cm)		
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	
清掃	平成26年2月18日	21	/	7.3	11	40	30	/	16	/	/
保守	平成26年4月10日	40	3.1	7.4	26	4	20	0	8	0	5
保守	平成26年8月20日	33	2.4	7.2	21	20	26	0	11	0	22
法定	平成26年10月28日	25	1.6	7.3	18	24	29	1	14	0	28
保守	平成26年12月12日	44	2.5	6.9	19	28	30	1	13	0	20


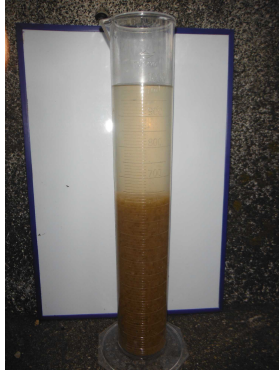

2. 浄化槽の概要図と法定検査時の設定状況

概要図		法定検査時の設定状況		
		メーカーの基本設定	保守点検の設定	
		循環水量	3Q 2.1 L/分	2.0 L/分
		逆洗設定	1日5回	1日5回
		処理水量調整バルブ	50%	50%

3. 法定検査時の槽内状況

1次処理1室/2室	1次処理2室/2次処理
<p>① 移送汚泥の採水箇所</p>	<p>② 散気バルブ ③ 処理水量調整バルブ ④ 循環・汚泥移送用バルブ</p> <p>※撮影の為、消毒筒は取り外しています</p>

4. 透視度低下の原因と保守点検への申し送り事項

自動逆洗後の移送汚泥	手動逆洗10分後の移送汚泥	手動逆洗のバルブ設定
		
原因 ①自動逆洗の時間 (30秒から1分間) 剥離汚泥が少ない	①手動逆洗を長く実施する 事で多くの汚泥を剥離し 移送する事ができる	②散気バルブ全閉 ③処理水量調整バルブ0% ④循環・汚泥移送用バルブ0%



申し送り	① 移送を停止し手動逆洗を10分実施して下さい ② 逆洗後、汚泥を移送して下さい
------	---

5. 保守点検からの経過観察

測定値	措置① 平成 26年 10月 30日 (法定検査から 2日後)
放流水透視度(度)	25 指示とおり手動逆洗10分と汚泥移送を実施しました
測定値	措置② 平成 26年 11月 13日 (法定検査から 16日後)
放流水透視度(度)	26 手動逆洗を10分実施しました
pH	7.2 次回まで様子を見ます
DO(mg/L)	1.9
測定値	措置③ 平成 26年 11月 28日 (法定検査から 31日後)
放流水透視度(度)	26 透視度に変化はないが逆洗時の剥離汚泥が少なくなる
pH	7.1 今回は手動逆洗を15分実施しました
DO(mg/L)	2.0
測定値	措置④ 平成 26年 12月 12日 (法定検査から 45日後)
放流水透視度(度)	44 保守点検作業日
pH	6.9 透視度が回復しました
DO(mg/L)	2.5 水質保持のため手動逆洗を10分実施し汚泥移送しました

6. 保守点検から清掃への申し送り事項

① 循環水量は2.0L/分で調整しています
② 逆洗設定は変更しないで下さい

7. 清掃時の留意点

① 適正量引抜き区分 ○-○-○
② 手動逆洗を10分以上実施する事で逆洗効果が上がる
【ろ材の形状】 1次処理1室:無し 2室:網様円筒状